

H.27(2015年) 四月（今月の掲示板）

shinshūō ootani niwa
 真宗大谷派・願成寺

智慧とは、ものの在り方を正しく見る能力です

善し悪しの考えは、人間の都合により変わります。昔は『儉約・節約』、好景気の時は『消費』が善い、今は『リサイクル（再利用）運動』などと言われます。現実主義の善悪の考え方は『現在が善ければエエ』となり、将来を見通す智慧がありません。4年前の東日本大震災で放射能が飛散したのに、また原子力発電が再開されます。

人間は、自分の思い通りにならない人を憎むが、得になると思つた時・善人扱いします。「私は、あんな悪人ではない」と他人を批判するが、親鸞聖人は『縁があれば、どんな悪事もする私』と言われました。『戦争は嫌いだが、国を守るには軍隊が必要だ』と言われると、そうだなと思う。私1人が節電しても、地球温暖化は防げない」と逃げるが、自分が変われば周りの人も変わります。何が真偽（本当・嘘）かが解らないと迷い・苦悩します。仏法を聞いても善惡の考え方は消えないが、真偽を見抜く智慧を得るために、聞法し続けることが大切です。

主な参考資料

(1) 池田勇緒（著）『親鸞聖人と現代を考える』、東本願寺出版部、p.4～37(2014年)。

(2) 真城義麿（著）『安心してがんばれる世界を』、東本願寺出版部（真宗文庫）、p.4(2011年)。

(3) 上山大峻（著）『仏教を読む—釈尊のさとり、親鸞のおしえー』、本願寺出版部、p.22～28(2006年)。